

表通り裏通り

自治会館を拠点に 活発な自治会活動

およそ1,820世帯、5,300人が住む、霞ヶ関北自治会。多くの地域の人たちに地元で活動してもらうため、霞ヶ関北自治会館・老人憩いの家を拠点として、さまざまな活動が行われています。

自治会館の事務を行う2人。「この仕事をして、地域のことを知ることができた」という佐藤阿恵子さん（右）、「たくさんの方との日常のふれあいを楽しんでいる」と竹澤敬子さん（左）



霞ヶ関北自治会の拠点である、霞ヶ関北自治会館・老人憩いの家。地域の皆さんが集まり、活動を行っています

現在の自治会館は、平成12年に開設されました。自治会館には専任の事務員が2人います。自治会活動には継続性が必要です。しかし、役員は任期ごとに替わってしまいます。そこで、事務局として固定する必要があるため事務員を置きました。2人の仕事は、会館内の清掃・貸し館業務から、回覧板の作成・毎月発行の自治会新聞「かほく」の制作補助・各種行事の準備など、自治会運営に関することです。

現在、自治会館を利用している団体は20団体以上で、霞ヶ関北自治会内に住む皆さんがグループを作り、活動しています。

また、併設の老人憩いの家は、高齢者の皆さんに開放されています。月に1回お楽しみ会も開かれ、ボランティアの皆さんが昼食を作ったり、出し物が披露されたりします。保育園との交流も行われています。

自治会活動を支えているのは、活動内容ごとに組織された部です。老人憩いの家の催しは、高齢福祉部を中心に行っています。お楽しみ会のほか、健康相談や介護教室なども行っています。防災部では9月に防災訓練を行います。レク部では、毎週土曜日に太極拳の会を行い、青年部では、「かほく若駒太鼓」の練習など、各部で活発な活動を行っています。

昨年、自治会結成40周年を迎え、その区切りとして40周年記念誌を作成し、地区内の皆さんにアンケートを行いました。その中で、「自治会活動に満足している」と答えた方は84%を占めました。自治会館を通じた活動が地域の皆さんに理解されている結果でしょう。それでも、「もっと多くの皆さんに自治会館を利用してほしいと考えています。自治会活動は、地域に住む皆さんがお互い協力し合っていくものなので、そのきっかけづくりをしていきたいですね」と同自治会総務部長の小島辰夫さん。

市内でも珍しい、事務員のいる自治会館。ここを拠点に、活発な自治会活動を行っている霞ヶ関北自治会。今後も地域の活性化を目指し、活動は続いていきます。



スポーツ吹き矢（上）、囲碁（右上）、大正琴（右）。自治会館で行われている活動の一部です



日ごろの発表の場として自治会館内のロビーでは、展示会が行われます



老人憩いの家のお楽しみ会、踊りのほか、手品や音楽演奏が披露されます



角栄商店街と共催の「霞北祭&ナイトフェア」では、サンバパレード（左）、子どもたちによる「かほく若駒太鼓」（右）などがにぎやかに行われました



川面を流れる灯ろうと、
それを見守る霞町自治会の皆さん

川がきれいになり、灯ろう流しでお祝い

ことし6月に、霞町自治会に沿って流れる不老川の河川改修が完成。同自治会では8月5日の霞町まつりに合わせて、灯ろう流しと花火でお祝いしました。「川がきれいになり、身近に感じられるようになって、うれしく思います。この環境を、これからも守っていききたいですね」と同自治会体育部長の高橋昭夫さん（68歳）。



川に入って灯ろうを流す、同自治会体育委員の皆さん

10分間に2,000文字入力し、初の団体入賞

8月6日、横浜市で行われた「第53回全国高等学校ワープロ競技大会」で、市立川越高校OA部が、埼玉県で初の団体2位入賞を果たしました。この大会は、各校3人の選手が決められた文章をそれぞれ10分間にどれだけ速く正確に入力できるかを競います。同校は6,206文字、1人平均2,000文字以上入力したことになります。出場した3人は、「2位入賞は予想以上でした」と驚きと喜びを表していました。3人はこの経験を生かして就職・進学に備えます。



入賞を果たしたOA部の3人。左から、坂上ひとみさん・稲垣秀雄さん・中郡真奈美さん



応急復旧訓練で開通した回線を使って、
記念通話を行う舟橋市長

大地震発生を想定して

川越市総合防災訓練が、8月27日に山田小学校で行われました。山田地区の皆さんや防災関係機関などから約800人以上が参加し、応急対策訓練などを行いました。「人工呼吸や消火訓練などを体験し、これから役に立てたいと思います。万が一の時には、訓練のようにできるようにしていきたい思います」と山田支会長の成田英夫さん（68歳・上寺山）。



消火器を使っでの消火訓練



賞状を手笑顔の内野さん

「来年は、中学校最後の全国大会になるので、百メートル自由形で三連覇をすることと、二百メートル自由形で

も優勝をして二種目制覇をすることが目標です」と、目を輝かせながら話してくれました。

初雁中学校に通う二年生。学校が終わってから、週六日、池袋のスイミングスクールに通っています。練習は、高校生と同じクラスで、五千メートルほど泳ぎます。

水泳との出会いは、健康に育つようにと、ベビースイミングスクールに通い始めたとき。本格的に選手として始めたのは、小学一年生からです。泳ぐことが大好きだから、続けることができました。水泳のよいところは、一生懸命練習をすれば、自己記録更新という結果が出るところ。しかし、途中で記録が伸びず、やめたいと思ったこともありました。その時は、練習仲間や周りの人々に支えられて、乗り切ることができました。

内野 怜菜さん（14歳・宮下町二丁目）

